

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

# 医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール [iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp](mailto:iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://npo-iryu.org/>



## こまえ 平和フェスタ 2017

### 鍼灸マッサージを健康保険で 署名活動へご参加下さい

狛江市では、毎年夏に市民ぐるみで平和を考える場として、市民参加の実行委員会が主催し、平和フェスタを開催しています。

今年7月7日国連で初めて核兵器禁止条約が採決され、国連加盟国の2/3の122ヶ国が賛成。しかし、日本の国連代表はこれを否決し、被爆者たちをはじめ多くの方々が怒りの声をあげていました。

日本も核兵器禁止条約へ参加せよ、との世論を広げるため、「平和フェスタ 2017、子どもたちの未来のために～ヒロシマ・ナガサキを忘れない」が下記のように開催されます。

この集いの行われるロビーで、患者・国民の願いとして鍼灸マッサージを保険で気軽に受けられるようにしよう、との署名を行うことが認められ参加することになりました。

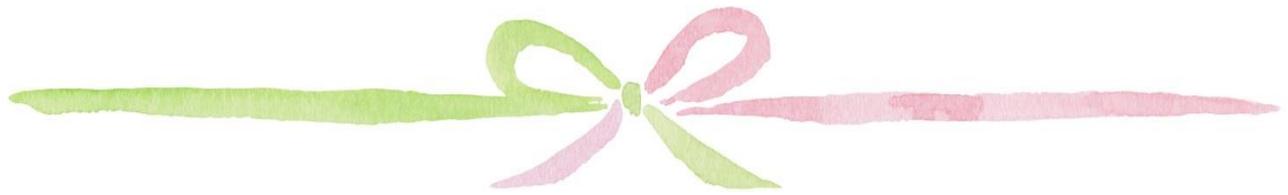
はり・きゅう治療、マッサージ治療を受けられる健康保険制度への、わたくしたちの願いを知らせることのできる貴重な機会です。参加可能な方は是非ご協力ください。

**日時: 2017年7月30日(日)13時~16時**

**会場: 狛江市駅前 OXビル4F エコルマホール**



お時間のゆるす方は、エコルマホール ロビーに  
12時前にお越しください。



## 第4回「国民の会」定期総会

2017年6月11日（日） 会場：大阪市森ノ宮学園専門学校アネックス校舎

参加者 約50名 東京からは山西理事長・高橋副理事・社団清水事務局長・NPO事務局山口の4名が参加しました。

来賓の方々の紹介で始まりました。

始めに石井あきら参議院議員の秘書石田氏（維新の会）から足腰の痛みにも家族も含め東洋医療にお世話になっていることから保険で係れるように願っていることを話されました。

次に井上浩大阪市議会議員（日本共産党市議）。東洋医療を学び、業としていた中から市議会議員となった方の挨拶は、患者と施術者の願いが託され活動の原点となり連帯の挨拶は頼もしく感じられました。他、12名の方々のメッセージが報告され政治家との繋がりやの広さを感じました。

参加者は「よもぎの会」（40年の歴史を持つ患者と施術者がつくる京都の会）、20年の歴史を持つ勉強会を継続する兵庫県支部、地元の大阪そして東京を中心に東洋医療の普及の輪を大きくしようという思いで参加されている方等。その活動が映像を見ながら確認することができました。

しかし、署名運動の数字は厳しく今年度の目標は5万筆に向かって達成することにし、具体化に向けて討論するには限られた時間の中、不十分な気がして残念でした。

関西限定ではありますが夕方のニュース番組に「憤懣本舗」というコーナーに投稿を提案するなどのユニークな取り組みの報告が署名を加速する1つとして出されるなど各地での教訓を会報で見られるようになるのを期待しています。

今年の総会は専門学校の広くて新しい場所だったことでもあります。参加者も去年より多く参加され、特に鍼灸・マッサージを学ぶ若い方の「体験会」への参加が真摯な動きを見せてくれ感動しました。

総会の2部に関西を中心にフォークソングで活躍された元「5つの赤い風船」の長野たかしさん・森川あやこさんの声量あるギターの弾き語り、昨今の理不尽な出来事を憂い、平和を願う思いを歌に託して表現力豊かに歌ってくれました。

すべての片付けが終わって暑い日差しの中、懇親会会場でのカンパイ！冷えたビールは最高でした！

山口充子 記

署名の到達 7月末現在 国民の会 **37、524筆**  
NPO医療を考える会 **12、742筆**

国民の会へのカンパとして有志の方々から集まった10万1,367円を総会にお渡ししました。ご協力ありがとうございました。今年から年会費を定め、団体会員にもお願いすることが決定されました。



## 神代植物公園散策レクリエーション開催

山西 俊夫



今年度のレクリエーション行事の神代植物公園散策が、6月18日（日）に開催されました。レクリエーションの前日は毎回当日の天候が気にかかります。梅雨シーズン到来もあり雨と蒸し暑さが懸念され、天気予報も当日は曇りのち雨でしたが、3時の解散時間を待ったかのように雨が降り出したのは返って幸運でした。

女性9名男性4名の13名が参加されました。私も夫婦で参加しましたが神代植物園には、小学校の遠足で訪れただけでしたので、予想以上の広さ（ガイドさんの説明では東京ドーム4～5個分）と植物の多さには目を見張るものがありました。ボランティアガイドのご婦人から10時45分～13時にわたり懇切丁寧に植物の名前、機能について説明をいただいたのは、初めて知ることが多く大変参考になりました。個人的には、植物も意志をもっていることを再認識し、広大なバラ園と水連の池のほか印象に深いものばかりで勉強になりました。

昼食にいただいた深大寺そばもコシがあり美味しかったです。懇親会を食事後開きましたが、初めて参加された方もいて自己紹介から始まり、日ごろの活動状況と東洋医療への関わり合いについて意見をお聞きすることができました。レクリエーション行事を毎年楽しみにしているとのことご意見も出て今後の活動の参考になりました。

みなさん遠路ご参加いただき好評のうちに開催できたのはよかったです。事務局の皆さん、特に山口さんにはお孫さんも参加くださり、準備万端お世話になりありがとうございました。

## 夏ばてからの健康回復に東洋医療の活用

### 健康相談と体験治療

日時 9月21日（木）13時～15時

会場 千駄ヶ谷社会教育館 和室

千駄ヶ谷社教館まつりへの参加により「NPO法人医療を考える会」や「一般社団法人鍼灸マッサージ師会」の活動への理解者も出てきました。

あん摩・マッサージ・指圧治療体験希望者の要望に応え健康相談に対応する「健康相談と体験治療」をおこないますので、ご参加をお願いいたします。



## ミクロの決死隊の旅

山西 八榮子

京王線調布駅の深い深い穴から飛び出て、神代植物園への少人数の旅。少女一人と、ジジ、ババのミクロの決死隊の旅は案内人から始まった。

真只中の梅雨にふさわしいアジサイの不思議の世界は、一人一人、虫メガネで“額”の中の小さな花を覗き込み、“額”はその使命を終えると下向いてしまうらしい。そんなの注意して見たことも聞いたこともない。



ミクロ決死隊は江戸時代にタイムスリップ。武家屋敷の奥座敷で鑑賞されたと言う江戸、肥後、伊勢のハナショウブ。

ものすごく五感を刺激されるがあまりに花が貴重すぎて、盗まれないための対策だったのかしら？

案内人の詳しい話はとりとめなく続く。少女が遠くから遅れがちなオババ連に早

くと嬉しそうに手招きしている。ハイハイと返事をすれども追いつかず、その状態が温室の中まで続く。

色あざやかな、らん、ベコニアに埋もれ、水辺のスイレン池へ。真っ黒な水に赤い金魚とメダカが口をパクパクさせて息苦しそうにしている。酸素不足で助けを求めている。水槽の水を変えないと駄目。私たちの住んでいるこの地球も同じこと。

お互い頑張ろうねと後にする。バラ園は盛りを過ぎたらしいが、ミクロ決死隊がドローンのように飛ぶにはまだまだきれいだ。大好きなそばを食い、語らい、迷子になった調布の駅の深い深い穴へと下りて旅は終わった。



## 神代植物園散策の感想

入江 希保

この会に入会二年目で、会の懇親会「神代植物園散策」に初参加させて頂きました。

当日は、生憎の曇り、のち午後3時の時点でどしゃ降り雨の急変でしたけど、色々な会員さん達と懇談を楽しみながら、ガイドさんに園内の植物の色々なお話を聞かせて頂き、深大寺の美味しい蕎麦が食べられて、盛りだくさんの有意義な1日でした。

今後の課題としては、いかに若手の鍼灸師と整体師の方達に参加して頂き、この会を知って頂くきっかけに繋がり、彼らの中から会員を増やして行く事も視野に入れるべきではないでしょうか？



## 神代植物園散策記

田中榮子

NPO 医療を考える会の行事、神代植物園散策は、園内の植物などに詳しいボランティアさんの案内、説明があり、はじめて知ることが沢山ありました。

例えば、あじさいの花は、蜂が蜜を吸い終わったら、まわりの花は「役目が終わった」と花びらを裏返しにするとのこと。してみると「あら不思議」大きな花びらがひっくり返っています。

「赤松はさわっても痛くない」「黒松はさわると痛い」とのこと。実際に葉先に触れると黒松の葉はチクチクと痛みを感じます。

松葉の落ち葉で埋まる道を歩くといい香りにすっきりしました。こんもりとした林は、森林浴をしているように、フィトンチッド等、私達にやさしい波長が伝わってきます。

広い温室はめずらしい花でいっぱいでしたし、池のスイレンは遠い世界の花かと思わせるような高貴さを感じさせました。そして、広く明るいバラ園、香りに満ちてうっとりやさしい気持ちにさせてくれました。深大寺門前のおそば屋さんでの昼食と参加者の和やかな懇談でした。みなさんが、鍼灸、マッサージが当たり前に健康保険で受けられるようになることを希望していました。

今後どのような運動をしていったら効果的か、「一般の人に解りやすくしていきたい」「NHK 職員による『介護殺人』のお話もよかった」などなど話は尽きませんでした。

本日のような命の洗濯になるような行事を入れていくと、元気よく前向きに行かれるなど感じました。参加者の皆さま、ありがとうございました。



## もうワクチンはやめなさい

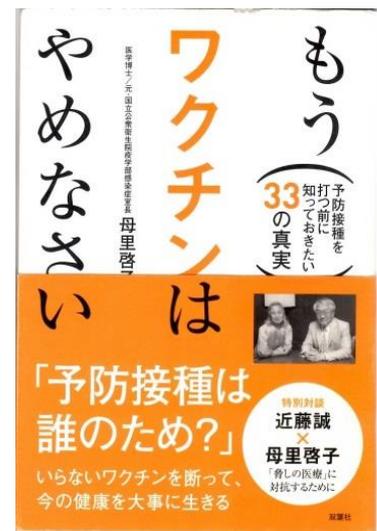
著書の題名「もうワクチンはやめなさい」は著者の母里啓子さんの「さけび声」です。母里啓子さんは、千葉大学医学部を卒業後に伝染病研究所（現、東京大学医学部研究所）などでウイルスの研究に携わりました。

その後、国立衛生研究院（現、国立保健医療科学院）疫学部感染症室長を務め、さらに、神奈川県の瀬谷、戸塚、旭の保健所所長を務めた方です。ワクチンの専門家であるとともに医療行政に精通した方です。ワクチンの普及にも携わった方の怒りの声が「もうワクチンはやめなさい」なのです。

少し先の話になりますが、11月26日のNPO 法人医療を考える会の総会の講演会で「ワクチンのお話し」をお願いしています。

「ぜひ知っておこう ワクチンのこと」および「もうワクチンはやめなさい」いずれも母里啓子先生著作、双葉社出版の著書を取り扱っています。

どちらも1,100円です。ぜひご購入ください。事務局 山口充子



# 薬にたよらない健康生活を

「薬をやめれば病気は治る」という、今回ご紹介する本を書店で手にしたとき、まったく同じ表題の本を持っていたな一と思ったのですが、そのとおりでした。

安保徹、新潟大学大学院医学部教授の「薬をやめると病気は治る」という2004年に出版された本です。免疫学の研究者である安保教授は、薬が身体の免疫作用、自然治癒力を混乱させ病状を作り出していることを明らかにして、薬を使わない治療法を、診療に携わる医師と協力して打ち出した方です。

このところ、薬の弊害を指摘する発言は広がってきて、週刊誌でも取り上げるようになりました。健康をお医者さんまかせ、薬まかせでは改善しないことは明白です。

自分の健康を考えるため、正しい情報を得ようとすれば十分手にはいります。岡本裕医師の著書「薬をやめれば病気は治る」も健康を考えるうえで大変参考になる本です。

患者に語りかけるような非常に解りやすく、そして、多くの方がたが疑問に思う問題について丁寧にこたえています。

岡本医師は薬について、著書のなかで次のようにいっています。

『薬はそもそも毒。安易に飲むものではない』『薬をやめれば病気は治る』と思う根拠は薬を常用すると、副作用に関係なく寿命を縮めることになる、と私は考えているのです。」「私が『薬をやめれば病気が治る』ことをみなさんにお伝えするのも、医者として大切な使命だと感じています。そんな思いを込めて、私はこの本を書きました。』

薬の問題だけでなく、健康的な生き方、暮らし方についても触れられていますので、是非みなさんに読んでいただきたいと思い、ご紹介いたしました。(久下勝通)



**現** 役医師の著者いわく、「長生きして居るのは薬をほとんど飲まない人」。薬は病気を治すために飲むものだが、副作用があるだけでなく、体の免疫力を下げて回復を遅らせ、命を縮めることもあるのだ。注意すべきは風邪薬、睡眠薬、胃薬、鎮痛剤、降圧剤、糖尿病の薬など、あげればきりがなく、なぜこれらを飲み続けると長生きできないのか？ 他方で薬を飲まない健康長寿な人の共通項は「肉や乳製品を控える」「野菜をとる」「腹七分目」「規則正しい生活」「ストレスを減らす」「筋肉と関節を使う」等々。その理由や実践法を詳しく紹介。

幻冬舎新書 300  
780円  
岡本裕医師  
ウェブサイト  
「e-クリニック」  
にて、情報発信を  
行っています。